

私が二十四歳のときにかいた恥（草柳大蔵）  
4人組での学び合いを生かした指導

学校名（府中町立府中中学校）

- 1 学年 第3学年
- 2 主題名 感謝の心 【2－（6） 感謝】
- 3 ねらい 草柳さんのすごいと思うところを考えるを通して、今までは素直に受け止められなかった周囲の支えに感謝し、その思いにこたえようとする態度を育成する。
- 4 資料名 「私が二十四歳のときにかいた恥」（出典：『13歳からの道徳教科書』育鵬社）
- 5 授業の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	留意点
導 入	1 人から指摘を受けたとき、自分がどんな受け止め方をしているか振り返る。	○人から指摘されたとき、どんな気持ちになりますか。 ・いやな気持ちになる。 ・自分が悪いとはわかっているけど、つい反抗してしまう。	○事前にアンケート調査をしておき、いくつか紹介する。
展 開	2 資料の前半を読み、草柳さんの気持ちを考える。	○大臣の奥さんからのことばを聞いたとき、草柳さんはどんな気持ちになったでしょうか。 ㊦ 指摘されて恥ずかしい。 ㊧ 別にいいじゃないか。 ㊨ ア、イ以外	○資料を読む前に、草柳さんの紹介をする。 ○資料は、前半部分のみ配布する（範読）。 ○答えの選択肢（㊦・㊧）を設け、全員の挙手を求める。それ以外の意見は発表させる。 ○いずれの気持ちも否定しない。人から指摘を受けたときには、反発したり恥に思ったりしやすいことを押さえる。 ○資料の後半を配り、範読する。
	3 資料の後半を読み、草柳さんの行動について考える。		○草柳さんは二十数年間、大臣の奥さんの教えを守り続けたこと、それによって、田実さんや中山さんから信頼を得て、取材するこ

	<p style="text-align: center;"><b>学び合い</b></p> <p style="text-align: center;">◎あなたは、草柳さんの、どんなところがすごいと思いますか。</p> <p style="text-align: center;">(個) ⇨ (4人組) ⇨ (全体)</p> <p style="text-align: center;">予想される生徒の反応</p> <p>⑦ 大臣の奥さんの教えを素直に聞いたところ。 →</p> <p>⑧ 二十年后も奥さんからの教えを守ったところ。</p> <p>⑨ 自分の成功を、人のおかげだと感謝できるところ。</p> <p>なぜそう思うのか、自分だったらどうだったかを問うことで、なかなかそうは受け止めきれない人間の弱さや、人々の善意による教えに感謝する気持ち、それにこたえようとする気持ちの尊さについて深く考えさせる。</p> <p>◇個人でワークシートに書かせたあと、4人班で意見の交流を行う。</p> <p>◇交流の後、「一番すごいところは何か」を問う。</p> <p>◇各班にホワイトボードを配り、班で出た意見の中からひとつを選んで書かせ、黒板に貼り、なぜそれを選んだかの理由とあわせて発表させる。</p>	<p>とができたのだということを確認する。</p> <p>◎自分の周りにも、大臣の奥さんの言葉に似たものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うっかりミスしたところを友だちから指摘された。</li> <li>・母に言葉遣いを直しなさいと言われた。</li> </ul>	<p>それに対する切り返し</p> <p>○これまでに耳の痛いことを言われた経験を思いださせる。</p>
<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>4 心のノート (P64～P65) を読み、教師の説話を聞く。</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>○今日の授業を通して、考えたことや今後の生活に活かしたいことを書きましょう。</p>	<p>○多くの人に支えられていることに感謝するとともに、指摘されることによって、自分の言動の改善に向けて努力しようとする意欲が持てるような話をする。</p> <p>○本時を通して感謝について気付いたことをまとめさせる。</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>			

# 活用に生かすための実践報告

府中町立府中中学校区

## 1 地域や児童生徒の実態

今年度、府中町においては「あいさつができる」「感謝する」「志と夢をもつ」子どもの育成のため、子どもの「知・徳・体」の調和のとれた発達促進に努め、「生きる力」の育成を目指している。

また、府中中学校区においてはこれまで県指定「心の元気を育てる地域支援事業」などを通して、小中学校の交流や連携を行ってきた。これらの取組の中で、コミュニケーション力の未熟さや自己肯定感の低さにより、児童・生徒同士で安心して学びを深める関係に至っていないということが明らかになっている。また、昨年度不登校率も高かったことから、自尊感情の育成が緊急かつ重要な課題となっている。

## 2 教材開発及び指導過程の工夫

### (1) 「学び合い」を取り入れた道徳の時間の授業づくり

府中中学校区ではこれまでも学び合いを取り入れた授業作りを行っていたが、今年度からは道徳の時間における効果な学び合いについて研究を進めている。

### (2) 道徳の時間の評価についての研究

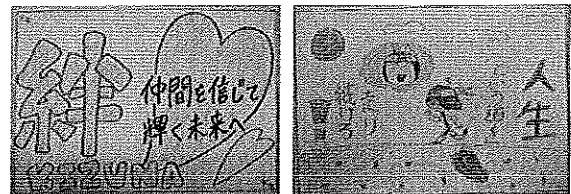
道徳の時間の評価は、道徳の時間の指導が効果的であったか、指導のねらいがどの程度達成されたかについて把握し、適正な指導を行うために行っている。

府中中学校での評価方法は、道徳の授業の指導後に書かせた感想文を4つの次元（実践的次元・論理的次元・感覚的次元・否定的次元）に分けて評価している。

### (3) 「心のノート」を主教材とした授業

○主題名 自己の向上 <1-(5)>  
資料名 「いまここに24の鍵がある」  
(心のノートP10~P11)

24の鍵を紹介した後、どの鍵をこれから1年間大切にしたいかを決め、それを自分なりの言葉にして、道徳ファイルに貼らせ、1年を通して目に触れられるようにするとともに、折に触れて振り返られるようにした。



## 3 発問の工夫

- ・ねらいとする道徳的価値に到達させるための中心発問を考える。
- ・中心発問を生かしていくための補助発問や切り返し発問を、児童生徒の反応を予想しながら考える。

## 4 児童生徒の反応（アンケートより）

### (1) 「道徳の時間」の勉強は好きだ

小学校 82.0%→83.5%

中学校 66.6%→75.8%

### (2) 「道徳の時間」はためになると思う

小学校 92.1%→96.2%

中学校 81.2%→87.6%

(年度当初) (年度末)

## 5 成果と課題

成果として、アンケート結果より授業改善を図ることができたことが挙げられる。また、異校種の道徳の時間の授業を参観したり、小中学校の先生が同じ場で協議を行ったりしたことにより、小中9年間の系統性を意識するようになっている。

今後の課題としては、効果的な学び合いを取り入れたさらなる道徳の時間の授業改善や道徳の評価の在り方が挙げられる。